

# 第3回 「末廣農場」

2019・3・3

～ 久彌が愛した末廣野 ～

林田利之

## 1. 岩崎久彌と三菱社

岩崎久彌(図1)は慶応元年(1865)8月25日、土佐国安芸郡井ノ口村で、三菱の創設者である岩崎彌太郎とその妻、喜勢(図2)の間に長男として生まれました。



図1 岩崎久彌



図2 岩崎彌太郎と喜勢

久彌は、慶應義塾、三菱商業学校に学んだ後、明治19(1886)年にアメリカペンシルベニア大学に留学(図3)、同24年帰国します。久彌が留学する以前に、三菱創業者初代彌太郎は主力の海運業において、政府が後押しする共同運輸会社との熾烈な競争の渦中で明治18年に病没していました。

跡を継いだ実弟の彌之助(図4)は海運業から撤退、明治19年には新たに「三菱社」を創立し、鉱業、造船など、海上から陸上の事業に転身を果たしました。明治26年、彌之助は商法の施行に際して会社を改組し、ここに「三菱合資会社」を設立、同時に甥である久彌に社長の座を譲ることになります。

久彌はその後、23年間にわたって三菱の経営を主宰し、新たに神戸に製糸会社を設立するなど社業を拡充し、鉱業、銀行、造船、商事、地所などの諸事業でも大躍進を果たしました。また久彌が社長を務めた期間は、国内で殖産興業、産業革命、重工業形成が重なった時期でもあり、時代の追風に乗って、叔父彌之助によって築かれた事業の近代化と新たな事業を興して三菱の多角経営に務めました。

三菱社をより強い会社とした後の大正5年(1916)、久彌は従兄弟である岩崎小彌太(図5)に社長の座を譲り、新たな人生を歩み始めます。



図3 アメリカ留学時代の久彌(2列目右端)



図4 岩崎彌之助



図5 岩崎小彌太



図6 三菱財閥歴代社長の変遷